

史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会（第25期・第9回）

～歴史教育の未来をめぐって～
高等学校地理歴史科
歴史領域科目の構造

2023(令和5)年4月22日(土)

文部科学省 初等中等教育局

(併) 同

(併) 国立教育政策研究所

教育課程課

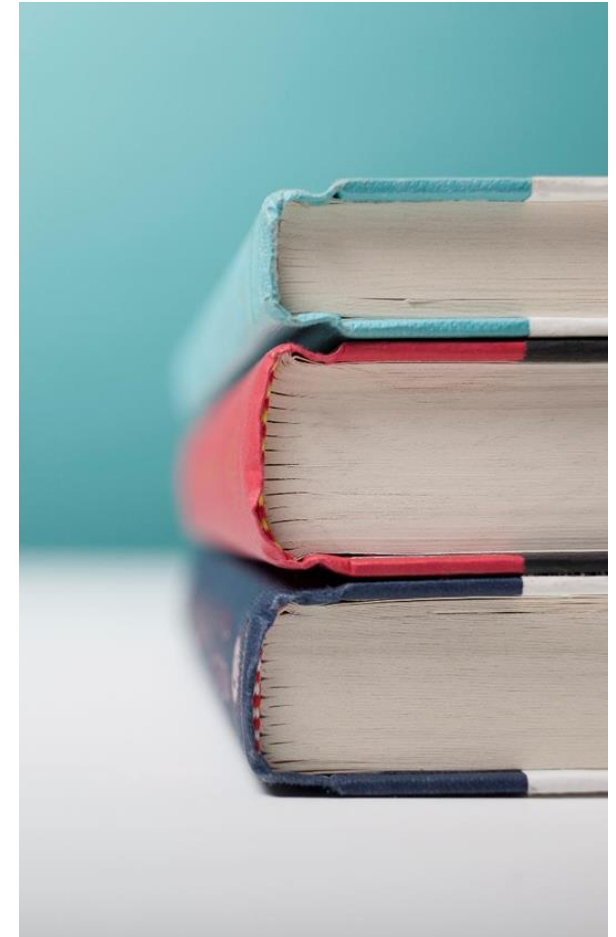
教育課程研究センター

視学官

教科調査官

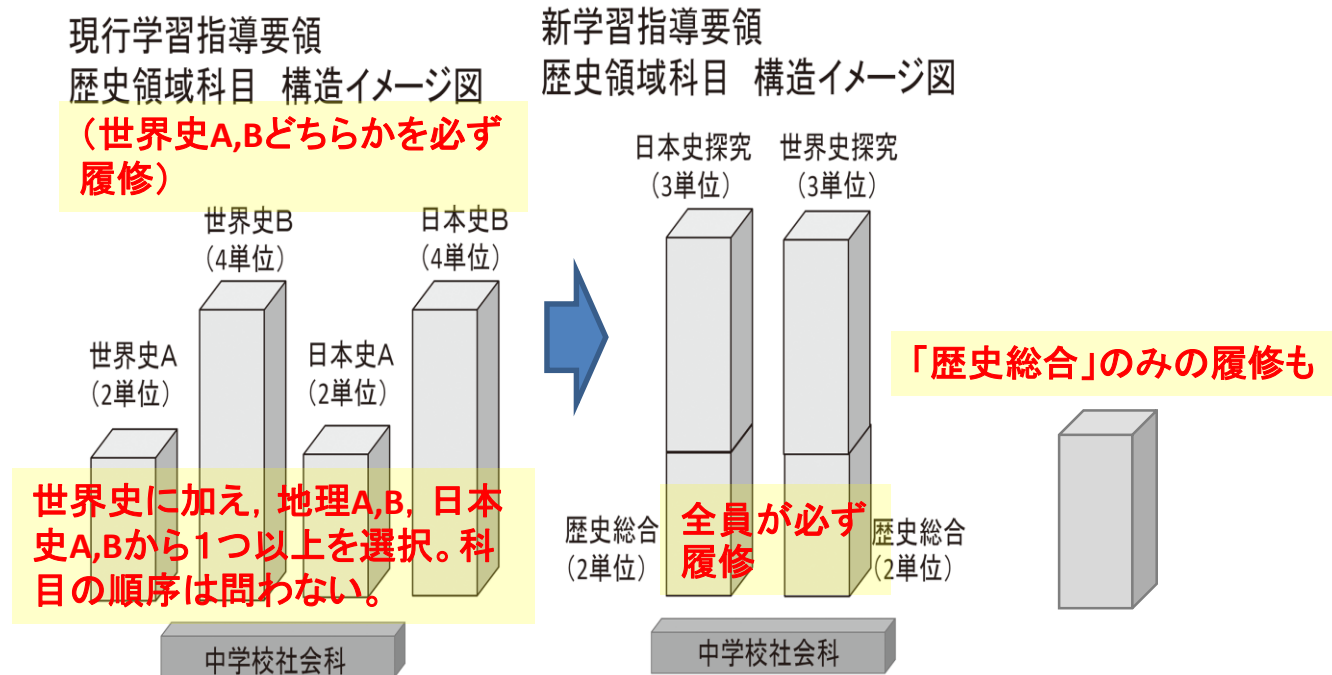
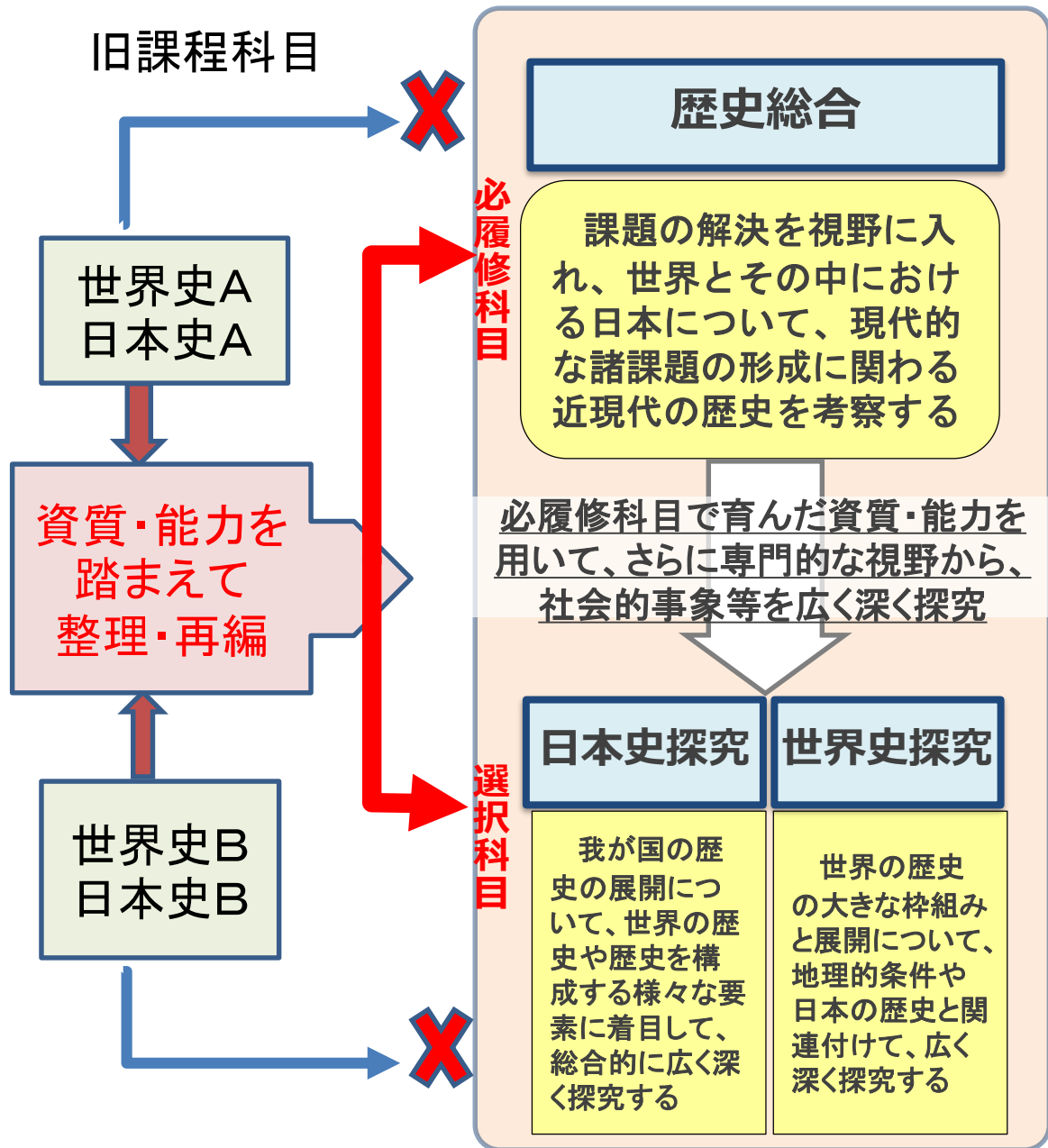
教育課程調査官

藤野 敦



歴史領域科目の特徴（共通）

歴史領域科目の構造と履修の順序性



各科目の履修については、(中略)全ての生徒に履修させる科目である「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できるという、この教科の基本的な構造を留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。

(学習指導要領 第2節 地理歴史 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い1(3))

「歴史総合」との「連続性」、 「歴史総合」の学習の成果を踏まえた発展的な学習

日本史探究

世界史探究

イ この科目では、中学校までの学習や「歴史総合」の学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって我が国の歴史の展開を学習できるよう工夫すること。その際、我が国の歴史を大観して理解し、考察、表現できるようにすることに指導の重点を置き、個別の事象のみの理解にとどまることのないよう留意すること。また、各時代の特色を総合的に考察する学習及び前後の時代を比較してその移り変わりを考察する学習の充実を図ること。

（「日本史探究」 3. 内容の取扱い(1)イ）

ア この科目では、中学校までの学習や「歴史総合」の学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって世界の歴史を学習できるよう指導を工夫すること。その際、世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解し、考察、表現できるようにすることに指導の重点を置き、個別の事象のみの理解にとどまることのないように留意すること。

（「世界史探究」 3. 内容の取扱い(1)ア）

力 近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」の学習の成果を踏まえ、より発展的に学習できるよう留意すること。

（「日本史探究」 3. 内容の取扱い(1)力）

力 近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」の学習の成果を踏まえ、より発展的に学習できるよう留意すること。

（「世界史探究」 3. 内容の取扱い(1)イ）

「『歴史総合』の学習との連続性」

→ 「資質・能力」育成の連続性

「『歴史総合』の学習の成果」

→ 「資質・能力」育成の成果

「取り上げる知識のつながりや
共通性に留まるものではない。」

総合・探究科目のねらいと歴史領域科目間の構造

歴史総合

「歴史総合」は、(中略)
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する科目として、今回の改訂において新たに設置された。

(「解説」 第3節「歴史総合」 1
(1)科目の性格)

「解説」
p.123

日本史探究

「日本史探究」は、(中略)
「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目である。

(「解説」 第3節「日本史探究」 1
(1)科目の性格)

「解説」
p.191

世界史探究

「世界史探究」は、(中略)
「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目である。

(「解説」 第3節「世界史探究」 1
(1)科目の性格)

「解説」
p.271

次の①から③までについて、内容のA、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習を踏まえ、**持続可能な社会の実現を視野**に入れ、**地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用**して探究する活動を通して、以下のA及びBの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 社会や集団と個人
- ② 世界の中の日本
- ③ 伝統や文化の継承と創造

「解説」
pp.259-263

知識	思考力・判断力・表現力等
(ア) 歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を理解すること。	(ア) 歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、 構想 して表現すること。

「見方・考え方を働かせて」

この中項目における**主題を設定し、諸資料を活用して探究する学習**とは、生徒がこれまでの学習を踏まえて、**自ら主題を設定すること**を示している。

歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望とは、…

同時代の評価や対応、推移や変容、意味や意義に着目して、私たちの生活様式や社会の在り方、現代の国際関係や諸地域間の結び付き、伝統文化や新技術などが、**過去の歴史的な画期や様々な交流を経て形成されたことを適切な資料に基づいて多面的・多角的に考察するとともに、生徒自身が主体となる社会への見通しを示すこと**を意味する

【主題の設定と学習上の課題（問い）の表現】

主題：「戦争防止と平和の実現に向けた取組の歴史的経緯とその展望」

※大項目E(1)「国際機構の形成と平和への模索」で学習したことや、大項目B～Dの(1)で考察した観点を踏まえた「問い」などを生かして設定 ↓

※主題を学習上の課題（問い）として示す

問い：「それぞれの時代における、戦争や平和を享受するためにはどのようなことに取り組むべきなのか」

【主題の探究】

- ・近年のノーベル平和賞の受賞者の活動内容に関する資料や国際連合の平和活動についての資料などを収集し、現在の「平和」という概念について整理する。
- ・予想（仮説）の設定：「すべての人が平和を享受するためには、人権問題や貧困問題の解決などに努める必要があるだろう」

【考察・構想】

- ・資料から、17世紀のウェストファリア条約によるヨーロッパの主権国家の成立、第一次世界大戦、第二次世界大戦後の国際機構の成立、冷戦の終結などを転換点として、戦争が起こった原因や戦争を防止するための対策について考察する。
- ・その時代の人々にとっての「平和」の意味を考察し、これからの社会ですべての人が平和を享受するためには、人権問題や貧困問題の解決などに努める必要があるという結論を導き出す。

【まとめ・表現】

結論を論述・レポートなどにまとめる。

※生徒同士が意見を交換する場面を設けたり、学習活動のまとめとしてクラスでプレゼンテーションの場面を設定したりすることも考えられる。

【学習の振り返り】

生徒が自らの探究活動を振り返り、学んだことの意味に気付く。

「単元や題材など内容や時間のまとめ」

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(第1章 総則 第3款1(1))

(1) 第1款の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、**単元や題材など内容や時間のまとめを見通しながら**、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。.....

• 小学校総則「解説」p.77 中学校総則「解説」p.78 高等学校総則「解説」p.118

...また、主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとめを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう**学習の見通し**を立てたり学習したことを**振り返ったり**して自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。**すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは**単元や題材など内容や時間のまとめをどのように構成するかというデザイン**を考えることに他ならない。**...

「歴史総合」の構成

A 歴史の扉

- (1) 歴史と私たち
- (2) 歴史の特質と資料

【大項目Aの性格】 「歴史総合」の導入として、中学校までの学習を振り返りながら、**歴史を学ぶ意義**や**歴史の学び方を学習**

- (1) **自分の生活や身近な地域の歴史が日本や世界の歴史とつながっていることを理解**したり、その関連性について考察したりする
- (2) **資料**から情報を読み取り、その意味や意義等を考察・表現する

【大項目B～Dの構造】

中項目(1)で大項目を見通した問いを立てた上で、(2)(3)で以下の内容を扱い、(4)で大項目の振り返り／科目全体のまとめを行う

B 近代化と私たち

- (1) 近代化への問い
- (2) 結び付く世界と日本の開国
- (3) 国民国家と明治維新
- (4) 近代化と現代的な諸課題

(1)(4) に
(2)(3) が挟ま
れた構造

【主な内容】

- 18世紀のアジアの経済と社会、アジア諸国と欧米諸国の接触・交流、日本やアジア諸国と欧米諸国の関係の変容 など
- 欧米諸国の市民革命、日本の近代化や国民国家形成の動き、列強の帝国主義政策、アジア諸国とその他の国や地域の動向 など

【現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化】

- 産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

- (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い
- (2) 第一次世界大戦と大衆社会
- (3) 経済危機と第二次世界大戦
- (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

- 第一次世界大戦の展開・性格と惨禍、ソ連の成立とアメリカの台頭、戦後の国際秩序の形成、大衆社会の形成と社会運動の広がり、大正デモクラシーと政党政治 など
- 世界恐慌と国際協調体制の変容、第二次世界大戦の展開・性格と惨禍、戦後世界の形成、日本の国際社会への復帰 など

- 政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。

D グローバル化と私たち

- (1) グローバル化への問い
- (2) 冷戦と世界経済
- (3) 世界秩序の変容と日本

(4) 現代的な諸課題の形成と展望

- 冷戦の展開と国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会 など
- 市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題 など

- 科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。

「歴史総合」の大項目の構造（例：B「近代化と私たち」）

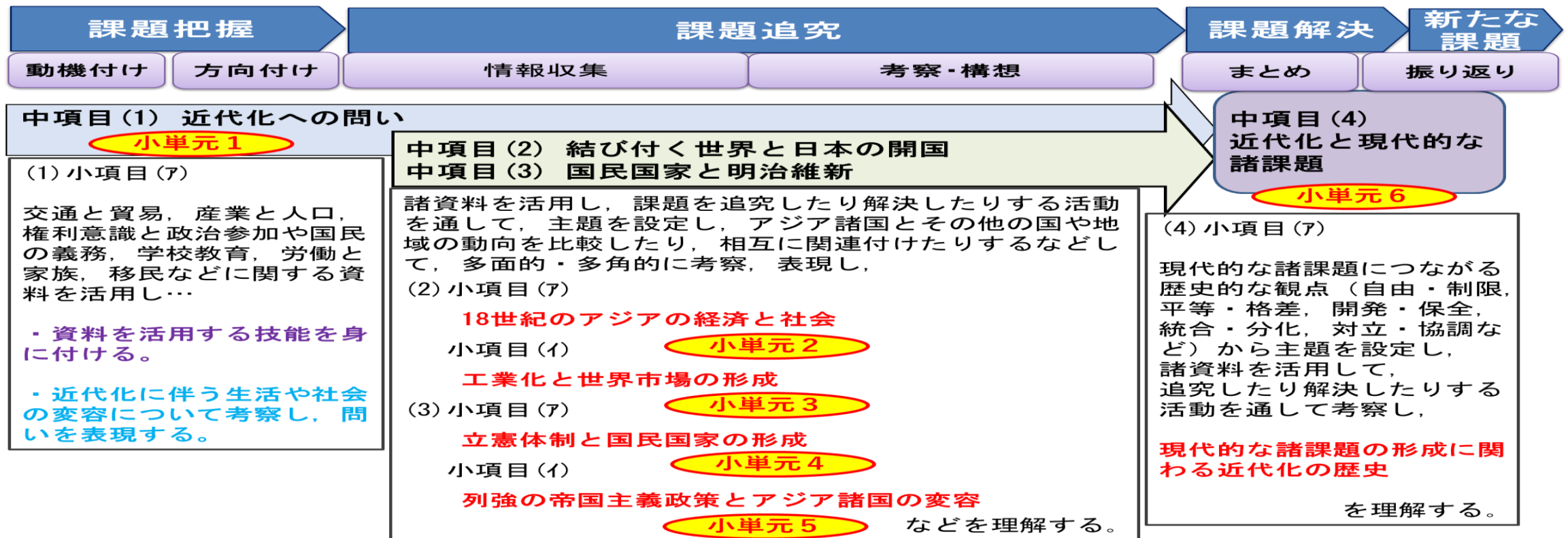
高等学校 地理歴史 「歴史総合」 「解説」 1(2) 目標

「参考資料」p.89

- 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通してとは、「歴史総合」の学習において、**主体的・対話的で深い学びを実現するために、課題を設定し、その課題の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目し、課題を追究したり解決したりする活動が展開するように学習を設計することが不可欠である**ことを意味している。

【大項目B~Dの構造】

中項目(1)で大項目を見通した問いを立てた上で、 →(2)(3)で以下の内容を扱い、
→(4)で大項目の振り返り／科目全体のまとめを行う



「現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化」と私たち（学習者）

「解説」

p.123

この科目では、**「現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化」**として、以下の三つの変化に着目した。

- ・産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。

- ・政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。

- ・科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。

「歴史総合」では、このような近現代の歴史の大きな変化を「近代化」、「国際秩序の変化や大衆化」、「グローバル化」と表し、**現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、それは生徒自身が向き合う現代的な諸課題とどのように関わっているのかなどについて生徒が課題意識をもって考察**できるよう、「A 歴史の扉」、「B 近代化と**私たち**」、「C 国際秩序の変化や大衆化と**私たち**」、「D グローバル化と**私たち**」の四つの大項目を設定した。

「歴史的な見方・考え方」を働かせる問いの設定

＜学習指導要領の記載と小項目の構成＞

B 近代化と私たち ←——— 大項目

(3) 国民国家と明治維新 ←——— 中項目

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解すること。

(イ) 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解すること。

ア「知識...」の(イ)と、イ「思考力...」の(イ)とが結び付いて、「小項目(イ)」を形成

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

＜小項目の構造 —B(3)小項目(イ)を事例に—＞

知識及び技能に関わる事項

列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、

「見方・考え方」を働かせて

列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解すること。

思考力・判断力・表現力等に関する事項

帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、

課題(問い)

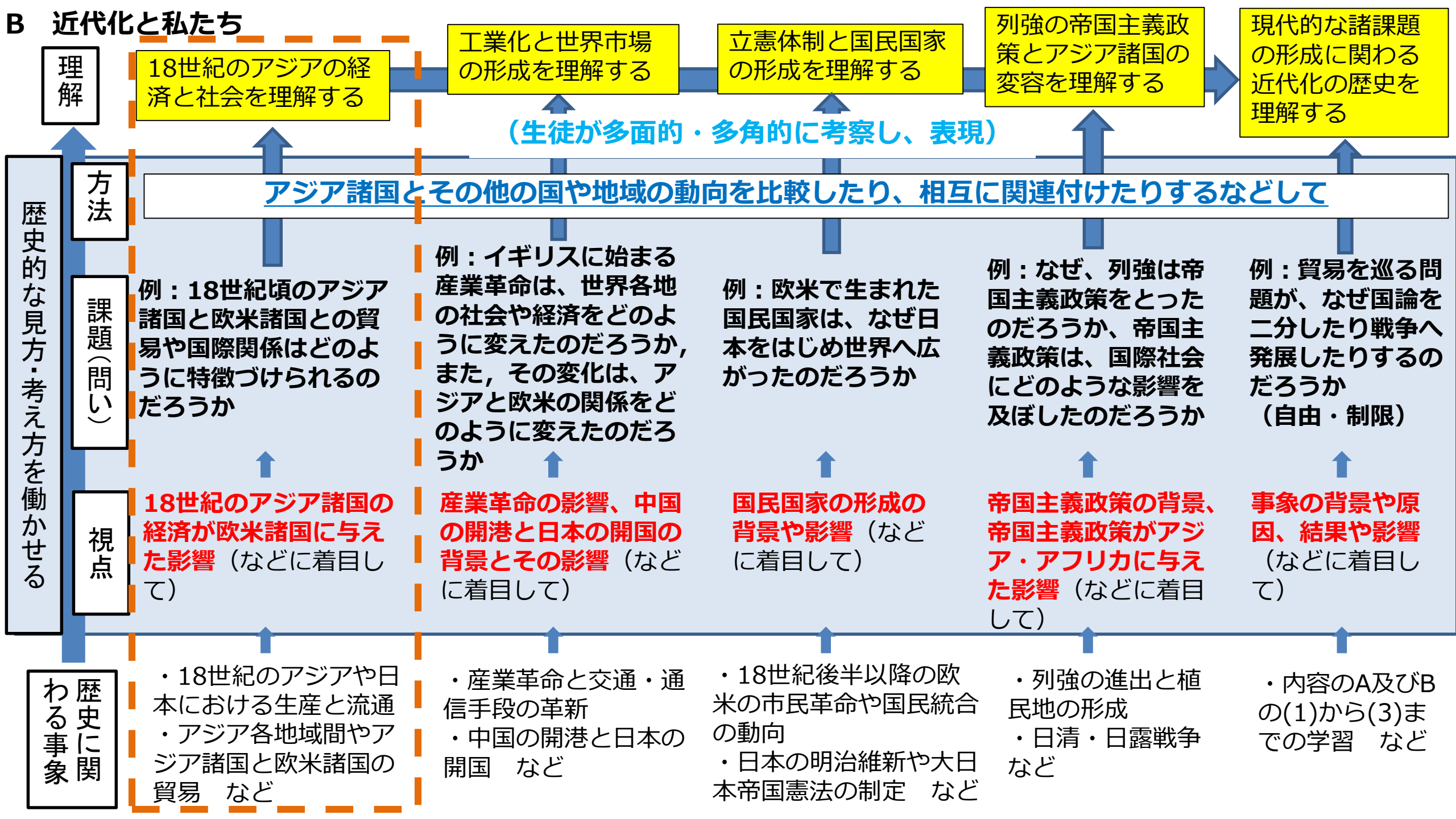
・主題を設定し、

アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

「解説」pp.129-130を基に作成

「歴史総合」で「理解すること」と示された内容

大項目	中項目	各小項目で「理解する」内容（身に付ける技能）
A 歴史の扉	(1)歴史と私たち	(ア) 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていること
	(2)歴史の特質と資料	(ア) 資料に基づいて歴史が叙述されていること
B 近代化と私たち	(1)近代化への問い	(ア) (資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能)
	(2)結び付く世界と日本の開国	(ア) 18世紀のアジアの経済と社会
		(イ) 工業化と世界市場の形成
	(3)国民国家と明治維新	(ア) 立憲体制と国民国家の形成
(イ) 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容		
(4)近代化と現代的な諸課題	(ア) 現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史	
C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	(1)国際秩序の変化や大衆化への問い	(ア) (資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能)
	(2)第一次世界大戦と大衆社会	(ア) 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制
		(イ) 大衆社会の形成と社会運動の広がり
	(3)経済危機と第二次世界大戦	(ア) 国際協調体制の動揺
(イ) 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰		
(4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(ア) 現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史	
D グローバル化と私たち	(1)グローバル化への問い	(ア) (資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能)
	(2)冷戦と世界経済	(ア) 国際政治の変容
		(イ) 世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会
	(3)世界秩序の変容と日本	(ア) 市場経済の変容と課題
(イ) 冷戦終結後の国際政治の変容と課題		
(4)現代的な諸課題の形成と展望	(ア) 歴史的経緯を踏まえた現代的な諸課題	



「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせることのできる課題(問い)の設定に向けて 「見方・考え方」と課題(問い)の設定との関係

※「社会的事象の歴史的な見方・考え方」

社会的事象を**時期や推移などとの関わり**に着目して捉え、**類似や差異などを**明確にしたり、事象同士を**因果関係などで関連付けたり**すること

高等学校 地理歴史 「歴史総合」 「解説」 1(2) 目標

- 社会的事象の歴史的な見方・考え方については、…「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付け」て働かせる際の「視点や方法(考え方)」であると整理した。すなわち、時期、年代など時系列に関わる視点、展開、変化、継続など諸事象の推移に関わる視点、類似、差異など諸事象の比較に関わる視点、背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用など事象相互のつながりに関わる視点、現在とのつながりなどに着目して、比較したり、関連させたりして社会的事象を捉えることとして整理したものである。
- 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ については、「歴史総合」の学習の特質を示している。すなわち、時期や推移などに着目して因果関係などで関連付けて捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史について考察したり、歴史に見られる課題や現代的な諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想したりするということであり、また、それを用いることによって生徒が獲得する知識の概念化を促し、理解を一層深めたり、課題を主体的に解決しようとする態度などにも作用したりするということである。

歴史的な見方・考え方を働かせる課題（問い）の設定の例（歴史総合）

- 時系列に関わる視点 ○諸事象の推移に関わる視点 ○諸事象の比較に関わる視点 ○事象相互のつながりに関わる視点
時期、年代 など 展開、変化、継続 など 類似、差異、特色 など 背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用 など

「歴史総合」「解説」pp.132-133

○時系列に関わる問い

【時期や年代】

「それはいつの出来事だろうか、同じ時期に他の地域ではどのようなことが起こっていたのだろうか」

「その事象はどのような経緯で起こったのだろうか」

【過去の理解】

「当時の人々はなぜそのような選択をしたのだろうか（現代とはどのような異なる時代背景があったと考えられるだろうか）」

○諸事象の推移に関わる問い

【変化と継続】

「このことで何を換えようとしたのだろうか、何が変わったのだろうか、何が変わらなかったのだろうか」

「複数の諸事象の変化には、どのような違いがあるだろうか」

○諸事象の比較に関わる問い

【類似と差異】

「その事象と他の事象を比較すると、どのような共通点と相違点を見いだすことができるだろうか」

「その違いが生じたのはなぜだろうか」（【背景や原因】と共有される問い）

「共通点に注目すると、どのような傾向が見いだせるだろうか」（【意味や意義と特色】と共有される問い）

【意味や意義と特色（特徴）】

「その事象は、当時どのような意味をもっていたのだろうか」

「その事象は、違う立場から考えると、どのような意味があったと考えられるだろうか」

「他の生徒が考察したその事象の意義について、あなたはどうか考えるか」

○事象相互のつながりに関わる問い

【背景や原因】

「なぜ、その事象は起こったのだろうか」

「この事象の背景にはどのような状況が存在したのだろうか」

「あなたは、その事象が起こった最も重要な要因とは何だと考えるか」

「あなたが学習した諸事象の中で、その事象と最も深いつながりがあると考えるのは何か、それはなぜか」

【影響や結果】

「同じ時期に共通する特徴をもった事象が複数起こったのはなぜだろうか」

「この事象の結果、どのような変化が生じたのだろうか」

「その事象は、社会全体にどのような影響を及ぼしたと考えられるだろうか」

○現在とのつながりに関わる問い

【歴史と現在】

「過去の事象と類似した現代の事象は何だろうか」

「現在の事象と、どのような点が関連しているのだろうか」

「どのようなことが現在につながる変化の要因として考えられるだろうか」

【歴史的な見通し、展望】

「この事象は、後の人々にどのような考えや課題をもたらすと考えられるか」

「（現在の）この事象は、過去の類似の事例を参考にすると、その後、どのような展開の可能性があると考えられるか」

「（現在の）この事象は、この後、どのような展開が望ましいと考えるか、それが実現されるためには、過去の事例を踏まえると、どのようなことが必要なのだろうか」

【自己との関わり】

「この事象を学ぶことは、あなたにとってどのような意味があると考えるか」

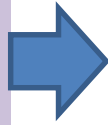
「日本史探究」「世界史探究」にも同様の記載があるが、例えば以下のように、加えられている要素もある。

※【転換や画期】あなたはどこに分岐点(転換点、画期)を見いだすか。それはどのような理由で、何が重要と考えたためか」「分岐点(転換点、画期)を設定した前後の時期を比較し、それぞれの特徴を表現してみよう」（「解説」p.203-205、p.281-283）

「歴史的な見方・考え方」を働かせる課題（問い）の設定

教師が設定する問い

「主題」の
設定
(例：●●と▲▲
の■ ■について)



<共通> 主題を学習上の課題とするために、
「小項目全体に関わる問い」
を設定

課題(問い)は、生徒が「見方・考え方」を働かせて考察することができるような課題(問い)として提示し、一連の学習を展開することが求められる

その上で...

歴史総合	世界史探究	日本史探究
①「事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題(問い)」 ②「事象を比較したり相互に関連付けたりして考察し、 <u>理解を深めるための</u> 課題(問い)」	①「事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題(問い)」 ②「事象を比較したり相互に関連付けたりして考察し、 <u>追究を促すための</u> 課題(問い)」	①「事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題(問い)」 ②「 <u>事象の意味や意義、関係性などを考察し</u> 理解を促すための課題(問い)」 ③「諸事象の <u>解釈</u> や <u>画期</u> を考察し表現することを促すための課題(問い)」

**「歴史総合」の学びを踏まえた「探究科目」の留意点
「日本史探究」**

「日本史探究」の特徴

- ① 「日本と東アジア」、「日本と世界」、「地域・日本と世界」
⇒ 大項目名にあらわれる対象となる空間と学習の特徴
- ② (時代の)「転換」、「展望」、「展開」
⇒ 中項目の役割
- ③ (時代を)「通観する問い」と展望する「仮説」
⇒ <課題設定> 中項目(1)→(2)
- ④ 「歴史の解釈、説明、論述」、「歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期」
⇒ <課題追究>中項目(3)の考察
- ⑤ 「近現代を通した歴史の画期を見いだし、根拠を示して表現する」学習
⇒ D(3)小項目才の学習
- ⑥ 「現代の日本の諸課題とその展望」
⇒ D(4)「日本史探究」のまとめ、目的
- ⑦ 「特性に着目し」た諸資料の活用と生涯の学習へのつながり
⇒ 学習における資料の活用と文化財としての視点

① 「日本と東アジア」、「日本と世界」、「地域・日本と世界」 「日本史探究」の学習対象となる空間と学習の特徴

歴史総合で学習した歴史の学び方を活用

A 原始・古代の日本と東アジア

- (1)黎明期の日本列島と**歴史的環境**
- (2)歴史資料と原始・古代の展望
- (3)古代の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈, 説明, 論述)

B 中世の日本と世界

- (1)中世への**転換と歴史的環境**
- (2)歴史資料と中世の展望
- (3)中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈, 説明, 論述)

C 近世の日本と世界

- (1)近世への**転換と歴史的環境**
- (2)歴史資料と近世の展望
- (3)近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈, 説明, 論述)

D 近現代の**地域・日本と世界**

- (1)近代への**転換と歴史的環境**
- (2)歴史資料と近代の展望
- (3)近現代の**地域・日本と世界の画期と構造**
- (4)現代の日本の課題の探究

「日本史B」では思考力等の段階的な育成を目指していたが、「日本史探究」では「歴史総合」での成果を踏まえ、冒頭の単元からこれらの学習活動を繰り返し取り入れ、思考力の一層の育成を図る。

前近代の学習による思考力等の育成

時代を通観する問い
資料からの仮説
意味や意義・関係性, 解釈や画期

時代を通観する問い
資料からの仮説
意味や意義・関係性, 解釈や画期

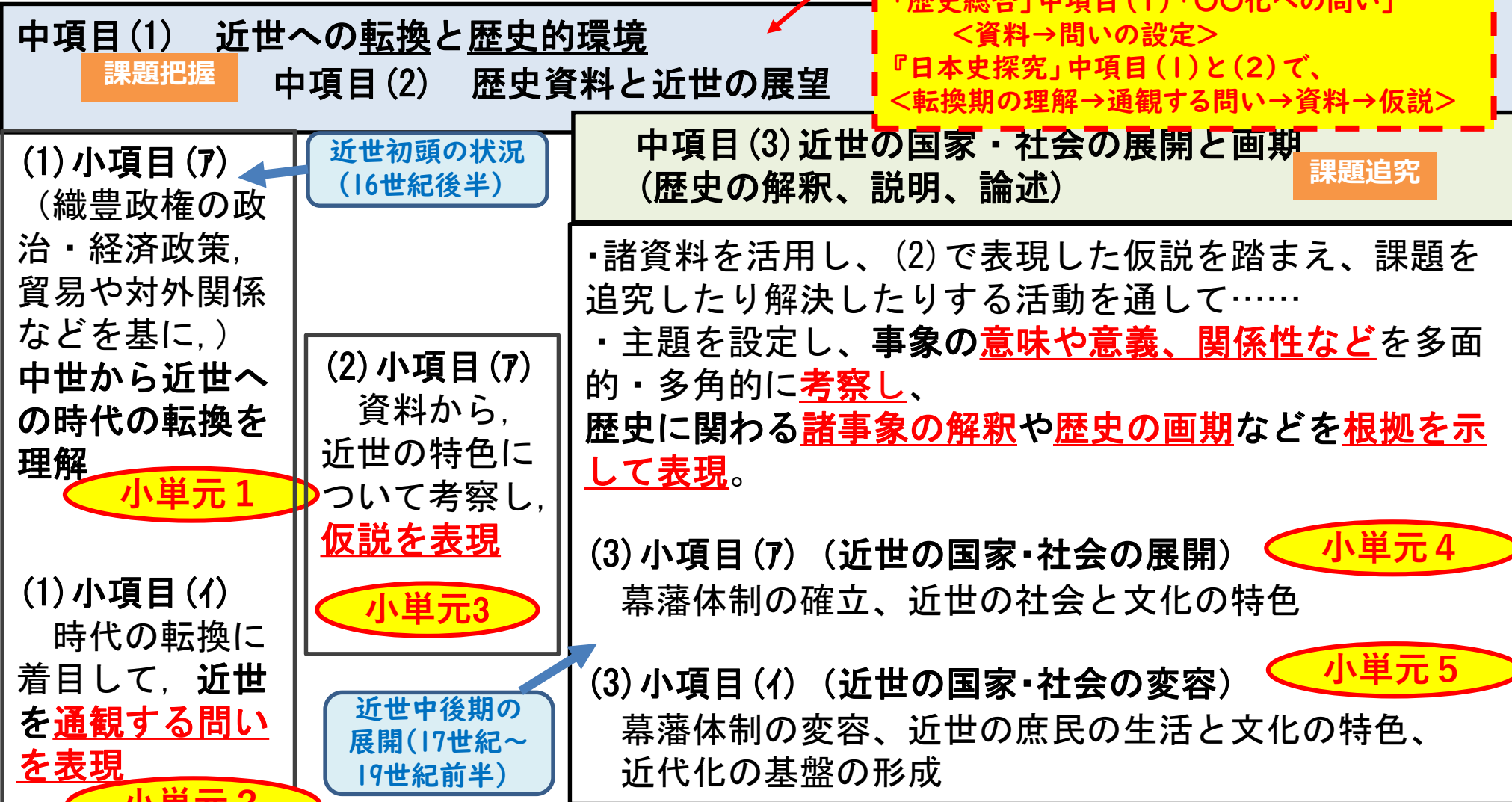
時代を通観する問い
資料からの仮説
意味や意義・関係性, 解釈や画期

時代を通観する問い
資料からの仮説
意味や意義・関係性, 解釈や画期
(近現代を通した歴史の画期の表現)
構想

② (時代の) 「転換」、「展望」、「展開」

「日本史探究」(前近代) 内容・学習のまとめり=大項目の構造

C 「近世の日本と世界」



(近世の日本を総合的に捉えて理解)

課題解決

小単元6

学習のまとめ

なぜ、OOなのか → それはOOだからではないだろうか

①「地域・日本と世界」

⑤「近現代を通じた歴史の画期の表現」

(日本史探究 D「近現代の地域・日本と世界」の構造)

D「近現代の地域・日本と世界」

「歴史総合」における「歴史の大きな変化」(近代化、…)を踏まえる。

大項目A～C(前近代)の学習

中項目(1) 近代への転換と歴史的環境

中項目(2) 歴史資料と近代の展望

中項目(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造

(3)小項目(才)

中項目(4)

現代の日本の課題の探究

(1)小項目(ア)

(対外政策の変容と開国, 幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に) 近代への時代の転換を理解

小単元1

(1)小項目(イ)

時代の転換に着目して, 近代を通観する問いを表現

小単元2

(2)小項目(ア)

資料から, 近代の特色について考察し, 仮説を表現

小単元3

・主題を設定し、…事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現。

(3)小項目(ア)

立憲体制への移行, 国民国家の形成, アジアや欧米諸国との関係の変容

小単元4

(3)小項目(イ)

産業の発展の経緯と近代の文化の特色, 大衆社会の形成

小単元5

(3)小項目(ウ)

第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会, 国民生活の変容

小単元6

(3)小項目(エ)

我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係, 現代の政治や社会の枠組み, 国民生活の変容

小単元7

構造的に整理して考察し, 近現代を通じた歴史の画期を根拠を示して表現

小単元8

学習のまとめ

小単元9

科目のまとめ

① 「地域・日本と世界」 ④近現代の学習

大項目D「近現代の地域・日本と世界」(3)

近現代の地域・日本と世界の画期と構造 小項目(ア)～(I)

(3)のイの(ア)、(イ)、(ウ)及び(エ)については、地域社会と日本や世界の歴史的な変化との関係性に着目して具体的に考察できるようにすること。（「日本史探究」3.内容の取扱い(2)ク）

特徴



- ① 「**地域社会**」に着目する視点が示されている
- ② 「**歴史総合**」で学んだ「**近現代における歴史の大きな変化(近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化)**」が、**具体的に地域にどのような影響を与え、変化をもたらし、生じた課題に人々はどのように対処していったのか**についての探究ができるように指導を工夫することが大切

地域社会が含まれた問いの事例（「解説」より）

- 「なぜ日本は議会や憲法をもつ国になったのであろうか、そのことは国際関係や地域社会にどのような変化をもたらしたのであろうか」
- 「諸制度の改革は、地域社会にどのような変化をもたらしたのだろうか」
- 「大衆化の潮流は、地域社会にどのように影響し、人々はどのように受け止めたのだろうか」
- 「学校教育はなぜ普及したのであろうか、なぜ地域社会に受け入れられたのだろうか」
- 「長期に及ぶ戦争は、地域社会と国民生活にどのような影響をもたらしたのだろうか」

⑤ 「近現代を通した歴史の画期を見いだし、根拠を示して表現する」学習

D 「近現代の地域・日本と世界」(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 イ(オ) (近現代を通した歴史の画期)

近現代を通した歴史の画期の表現

D(3)イ(オ) 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、(ア)から(エ)までの学習で見いだした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し、我が国の近現代を通した歴史の画期を見いだし、根拠を示して表現すること。

<学習事例>

①これまでの学習を基に、グループごとに地域の変化や、歴史総合で学んだ世界との関係、「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」などの歴史の大きな変化も踏まえて、次の視点から近現代の日本の画期について考察し、相互に意見交換してみよう。

<Aグループ> 近現代の日本の「政治」の大きな変化が起きた時期(画期)はどこだと考えられますか。その理由も説明しよう。

<Bグループ> 近現代日本の「経済・産業」の…

<Cグループ> 日本の近現代の「生活・文化」の…

②A、B、Cそれぞれのグループの意見を相互に発表して、区分した時期が重なり合っているところ、違うところなどを確認してみよう。

③ ①②を踏まえて、日本の近現代の歴史は、どのような(特色の)時期を経て現在に至っていると整理できるだろうか。ワークシートに記入してみよう。

④ それは、現代の日本の課題と、どのようなつながりが考えられるだろうか。(→D(4)「現代の日本の課題の探究」へ)

日本史探究ワークシート② (まとめ用) 【 7 】 班

★ 「政治」「経済・産業」「生活・文化」の3分野の画期をまとめて、重なり合っているところ、違うところをグループで確認しよう。

年代	1868 (明治元年)	1904	1931	1945	1955~57	2019 (令和元年)
政治		日露戦争の勝利 ・今までの近代化が止まっていた ・今までの近代化が止まっていた ・大正維新まで体制が続く	軍国主義の崩壊	日本国憲法制定 ・民主主義へ		
経済・産業			金本位制禁止から 管理通貨制度 ・国内で利用し輸出で稼ぐようになった。保護貿易(輸入制限) ・海外に投資(輸出) ← (重工業生産) > 軽工業生産 ・少額輸出			神武景気 ・2019年以降から 2020年以降から 2021年以降から
生活・文化	文明開化 ・西欧文化の流入(近代化) ・技術・学問の発展			平和主義へ ・国際貢献による関係の改善		
世界との関係 地域の変化		韓国併合…日本優位の支配 大國の対等な関係 長森の第88師団が派遣された	イギリスは他国から 「Y-シロ」を輸出した	地位の確立 唯一の被爆国として 役割を担う。	1952 → 高・中・小・中・高 1947 東京オリンピック開催	

「参考資料」
p.130

- 「歴史総合」における「歴史の大きな変化」(近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化)を踏まえる。
 - それらは具体的に日本の地域社会(生活,具体的な社会状況など)にどのように現れ、何を変化させていったのか。
 - 画期,時期区分(理解に基づいた解釈(判断)、課題意識、関心の表現)
 - それは何をもたらしたのか
 - どのような課題を生じたのか。など。
- ……………→ 「現在」への視点へ

⑦ 資料の活用と生涯の学習へのつながり（日本史探究に示される資料活用とその技能）

「解説」pp.191-192, 206, 266

【国民共有の財産としての資料】

…我が国には歴史を考察する上で有用かつ多様な資料が数多く存在する。これらの資料そのものが、様々な災害や時代の諸状況の中で多くの人々の努力によって伝えられ、社会の在り様やその教訓など、現代及び未来についての多くの示唆にあふれた国民共有の財産となっている。

【資料活用と資質・能力】

これらを効果的に活用する技能を獲得し、学校教育及び生涯にわたる学習において活用することは、生徒がこの後、現代の日本の課題について考察、構想する際に、叡智の継承として作用することとなる。

【資料保存・保全への理解】

博物館、図書館、公文書館や資料館等の果たす役割やそこに展示・保存されている資料、地域の遺跡、景観や無形文化財などが、これまでどのように受け継がれてきたかなどの視点に着目し、「歴史資料や遺構の保存・保全などの努力が図られていることに気付く」ことなどを通して、文化財保護への関心を高め、地域の文化遺産を尊重する態度を養うことも重要である。

【デジタル化された資料の活用】

博物館、図書館、公文書館などでは、その収蔵品をはじめ、文化資源をデジタル化して保存を行うとともに、公開や利用を積極的に行う取組が進んでいる。これらの「デジタル化された資料」は、インターネットを利用することで、利用の可能性を拡大している。…様々な歴史情報のデータベースが整備されており、それらの情報を活用し、指導計画上に適切に位置付けることが考えられる。

【社会教育、生涯教育】地域の文化遺産、博物館や公文書館、その他の資料館の調査・見学などを取り入れることで、実物や複製品などの資料と接して具体的に多様な情報を得て歴史の考察を深めることができる。公文書館は国及び地方公共団体が保管する歴史資料として重要な公文書や古文書などの記録を保存し、閲覧や展示など広く国民・住民に提供する施設である。また、図書館などを活用して地域の歴史に関わる書籍や資料の閲覧・調査や、レファレンス機能の利用など、歴史の学習を抽象的な概念の操作で終わらせずに一層の具体性をもって実体化していくことや、学校の授業のみで終わらせずに空間的には教室の外へ、時間的には卒業後まで継続させ、将来にわたって学び続ける機会や方法についての認識や姿勢を育み、生涯学習へと発展させていくことが大切である。

**「歴史総合」の学びを踏まえた「探究科目」の留意点
「世界史探究」**

「世界史探究」の特徴

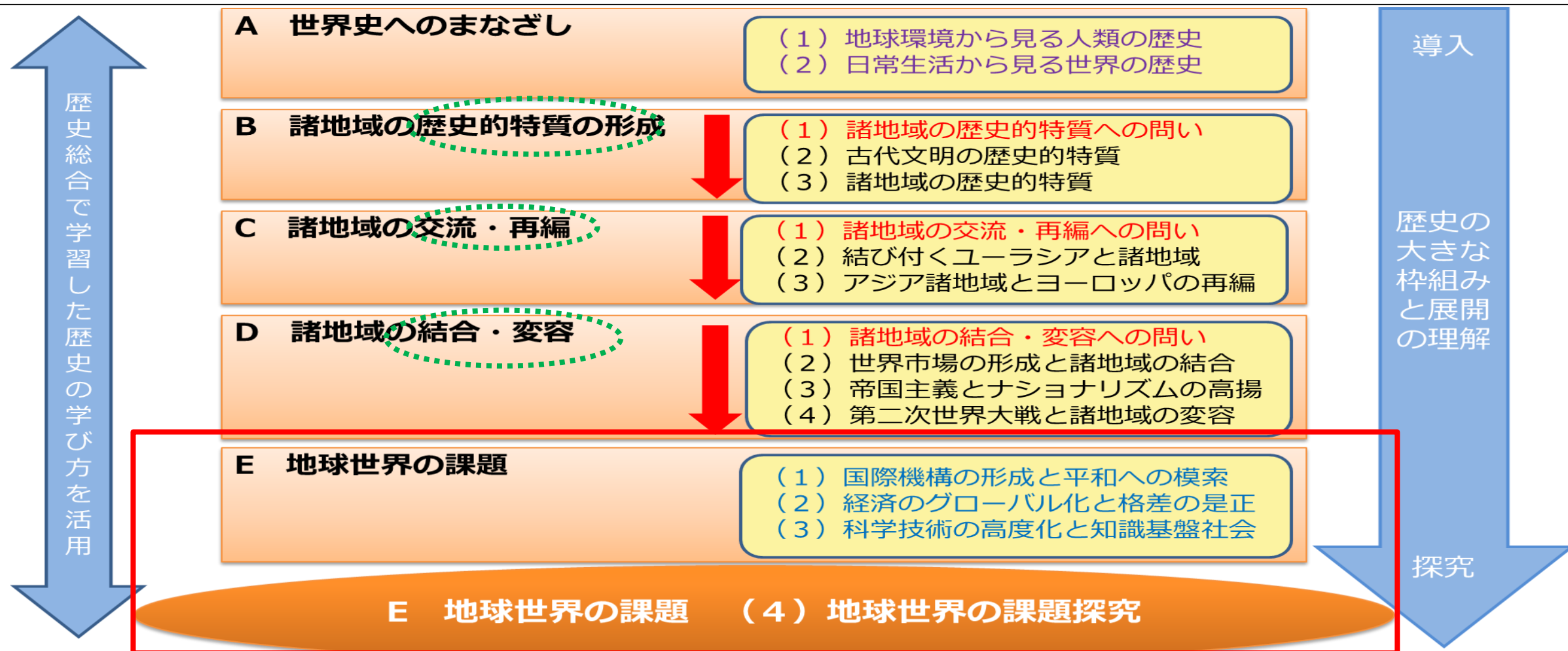
- ① 「諸地域」、「地球世界の課題」
⇒ 大項目名にあらわれる対象となる空間と学習の特徴
- ② 「読み解く観点について考察し、問いを表現する」
⇒ <課題設定>中項目(1)
- ③ 「主題を設定し、資料を活用して課題を考察」
⇒ <課題追究>中項目(2)、(3)及び(4)
- ④ 「地球環境から見る人類の歴史」、「日常生活から見る世界の歴史」
⇒ 大項目Aの中項目(1)、(2)
- ⑤ 「地球世界の課題の探究」
⇒ E(4)「世界史探究」のまとめ、目的

① 「諸地域」、 「地球世界の課題」

「世界史探究」の学習対象となる空間と学習の特徴

(2)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 内容のA、B、C、D及びEについては、この順序で取り扱うものとし、A、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習をすることにより、Eの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成すること。また、「歴史総合」で学習した歴史の学び方を活用すること。



② 「読み解く観点について考察し、問いを表現する」 内容・学習のまとめり＝大項目の構造

C 「諸地域の交流・再編」の場合

中項目(1) 諸地域の交流・再編への問い

小單元1

小項目(1)(7)

交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用し、

- ・資料を活用する技能を身に付ける。
- ・**諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。**

中項目(2) 結び付くユーラシアと諸地域

中項目(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編

諸資料を活用し、(1)で考察した**観点を踏まえた問いを基に**、課題を追究したり解決したりする活動を通して、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察、表現し、

小項目(2)(7) 海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がり

(2)(1) 諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出

小項目(3)(7) アジア諸地域の特質

(3)(1) 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大

小單元2

小單元5

諸地域の交流・再編の構造的理解

小單元6

を構造的に理解する。

学習のまとめ

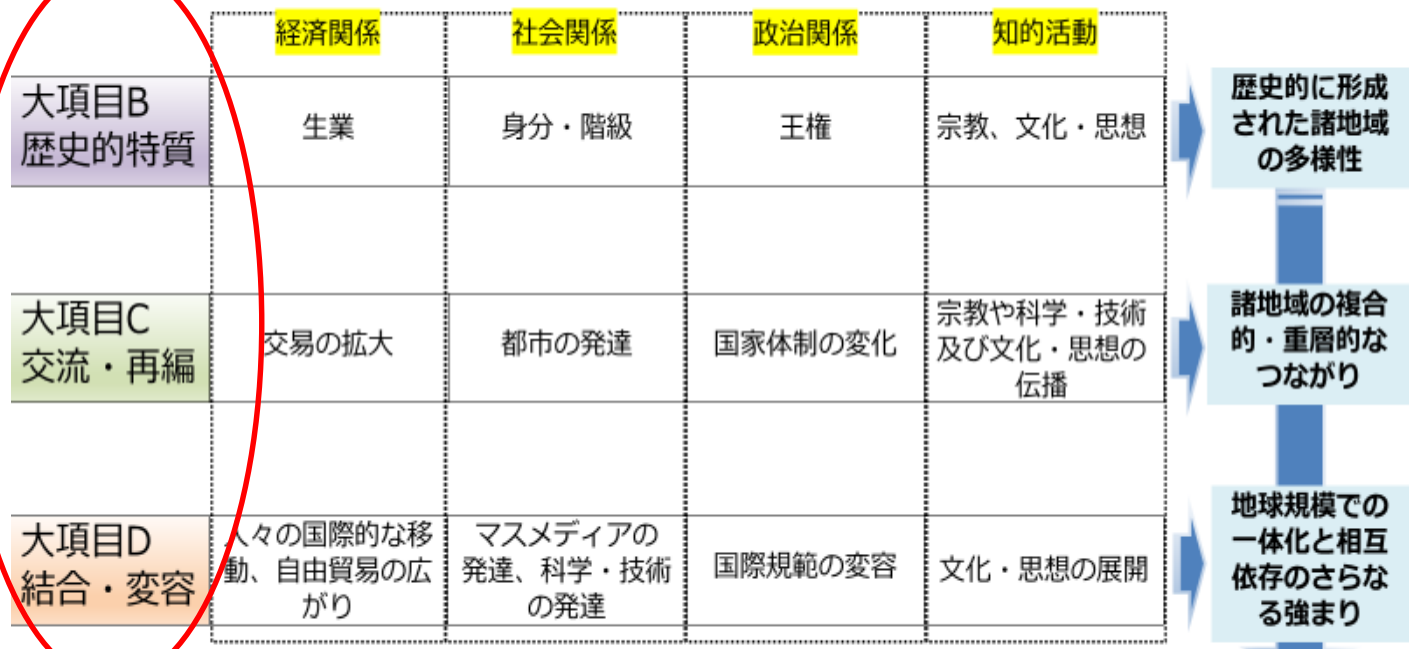
歴史的特質、交流・再編、結合・変容など、各項目ごとに、「歴史を捉える切り口である観点に基づいて」考察、理解する。

② 「読み解く観点について考察し、問いを表現する」 世界史探究の特徴 「構造的に理解」

大項目BからDは、「歴史総合」で学習した「資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能」や「問いを表現する」学習などの成果を踏まえて、世界の歴史の大きな枠組みと展開を**構造的に理解**することができるように、生徒が**歴史を捉える切り口である観点に基づいて**考察し問いを表現して、課題意識や学習の見通しをもたせつつ、その後の学習が展開する内容となっている。
 (「解説」 p.277)

「世界史探究」諸地域を読み解く観点（構造的な理解のために）

- 個別的の事項を、相互に結び付けて体系的に理解すること。
- 「構造」とは、複雑で多様な世界の歴史を大きな枠組みと展開を理解するために、各時期の諸地域の歴史を特色づける要素と、諸地域同士の関連性を見出して、理解すること。



地球世界につながる諸地域の社会や文化の多様性や複合性について段階的に考察を深める

⑤ 「地球世界の課題の探究」

E 「地球世界の課題」(1)～(3)までの学習

－時系列ではなく、主題を設定して現代世界の特質を考察する学習－

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 集団安全保障と冷戦の展開，アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き，平和共存と多極化の進展，冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に，紛争解決の取組と課題を理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(イ) 国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，国際連盟と国際連合との共通点と相違点，冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点，紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

◆内容の取扱い

・この科目の学習全体を視野に入れた(4)の主題を探究する活動が充実するよう(1)、(2)及び(3)の主題を設定し，多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質を考察できるよう指導を工夫すること。

◆「歴史総合」との関連

・「歴史総合」の「冷戦の終結」については、「冷戦終結後の国際政治の変容と課題」を理解するという、変化に着目した学習。

「世界史探究」での「冷戦の終結」については、冷戦終結に向けた合意形成やその後の地域紛争の頻発など、紛争解決の取組と課題の理解をねらいとして学習していくことになる。

(内容の取扱い)

カ 内容のEについては、この科目の学習全体を視野に入れた(4)の主題を探究する活動が充実するよう(1)、(2)及び(3)の主題を設定し、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質を考察できるよう指導を工夫すること。

主題を設定し、現代世界の特質を考察する学習

(1) 国際機構の形成と平和への模索

紛争解決の取組と課題の理解

(2) 経済のグローバル化と格差の是正

格差是正の取組と課題の理解

(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会

知識基盤社会の展開と課題の理解

中項目(1)から(3)で学習した内容を振り返らせながら、主題を設定し、探究する学習活動を行う。

(内容の取扱い)

(4)については、この科目のまとめとして位置付けること。その際、この科目の学習を振り返り、よりよい社会を展望できるようにすること。また、①から③までについては、相互につながりをもっていることに気付くようにすること。

世界史探究のまとめ

(4) 地球世界の課題の探究

次の①から③までについて、内容のA、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習を基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し**探究する活動**を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 紛争解決や共生
- ② 経済格差の是正や経済発展
- ③ 科学技術の発展や文化の変容

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

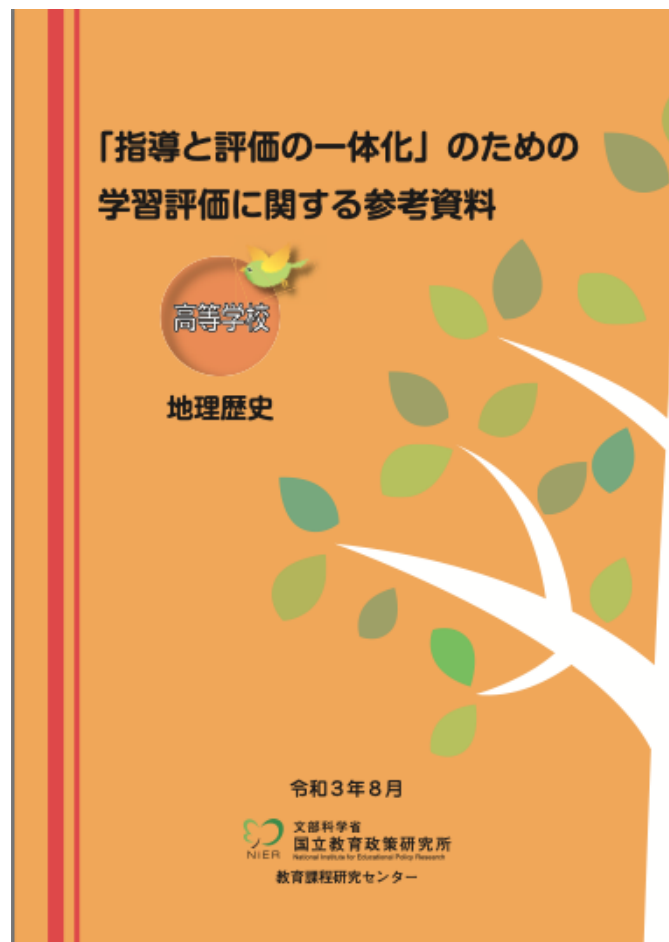
(ア) 地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、**構想し**、表現すること。

高等学校学習指導要領 (平成30年告示)解説 地理歴史編

https://www.mext.go.jp/content/20220802-mxt_kyoiku02-100002620_03.pdf



「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料 (国立教育政策研究所)



https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_chirirekishhi.pdf



【地理総合】 【地理探究】 事例1～事例5

【歴史総合】

- 事例6〔「内容のまとめり」を踏まえた指導計画と評価計画〕
(B「近代化と私たち」)
- 事例7〔「知識・技能」, 「思考・判断・表現」 の評価の工夫〕
(B(3)「国民国家と明治維新」(イ))
- 事例8〔「主体的に学習に取り組む態度」 の評価の工夫〕
(B(4)「近代化と現代的な諸課題」)

【日本史探究】

- 事例9〔「内容のまとめり」を踏まえた指導計画と評価計画〕
(C「近世の日本と世界」)
- 事例10〔「思考・判断・表現」 の評価の工夫〕
(D(3)(オ)近現代を通した歴史の画期)

【世界史探究】

- 事例11〔「内容のまとめり」を踏まえた小単元の評価の位置付け〕
(D(1)「諸地域の結合・変容への問い」)
- 事例12〔探究する活動における評価の工夫〕
(E(4)「地球世界の課題の探究」)